



# るりるりボランティア記 第3号

サワディーカー、るりです。私の住むバンコクではとーっても暑かった夏がついに終わり、雨季がやってきました。雨季といっても日本の梅雨のように1日中雨が降り続くのではなく、数時間だけざっと激しい雨が降り雷も鳴り響くという感じ。夜中に雨が降ると涼しい朝を迎えることができるのですが、日中の場合は雨が上がった直後に強い日差しがさすことも珍しくありません。それでも、4月や5月のことを思うとずいぶん過ごしやすい季節になりました。

さて、今回は活動の様子をレポートしようと計画していたのですが、現在、この2年間でどんな活動をしていくのかについて配属先とディスカッションを重ねているところです。方向性が決まった時点でるりるりボランティア記でご紹介しますので、もう少しお待ちください。

そこで、今回は先日 JOCV 同期と一緒にホアヒンに行った旅行記をお届けします。

## タイの休暇

「意外とお休み少ないな。そして、休暇の仕組みがなんだか複雑だな。」初めてタイのカレンダーを見た時の印象です。日本のゴールデンウィークやシルバーウィーク・年末年始のような祝祭日が集中している時期が見当たらなかったのです。一番長い休暇は、先月号でお伝えしたタイの旧正月に当たるソンクランで、土日を含めて5連休といったところ。

そして、祝祭日は企業だけ・銀行だけ・官公乗だけが休みになる日があったり、また月の満ち欠けや占星術によって決まる仏教関連の祝祭日もあったり、タイ人ですらはっきりと休みを把握していないとか…。ちなみに官公庁の場合有給は年に10日が一般的で、使わなかった場合翌年に持ち越せるのは最大5日間だけとのこと。そう、つまりこの国ではお休みが日本にいるとき以上に貴重なのです。

ということで、5月にあった3連休を利用して、バンコク近郊に住む同期隊員と美味しいシーフードを食べることを目的にホアヒンに行ってみることにしました。ちなみに、私がバンコクを出るのは今回が初めてです。



海で記念撮影。水は全く冷たくありません。

## バンコクの渋滞

バンコクから南西に200キロ、日本でも有名なパタヤとはタイ湾を挟んだ対岸にホアヒンは位置しています。バンコクから車で3時間半ほどということで、私たちはロットウーでホアヒンに行くことにしました。他にも、電車やバスでホアヒンに行くこともできます。

ロットウー。聞きなれない方も多いのではないのでしょうか。定員10人ほどの乗り合いバンのことで、タイでは通勤に利用している人もいほど一般的な交通手段です。乗車場所は決まっていますが、降車場所については、運行経路に含まれてさえいれば、乗車時に運転手に伝えておくところでも車を停めてくれます。

「3時間半か、そんなに遠くないな」と思ったのは束の間、私たちの乗ったロットウーは出発して間もなく渋滞に巻き込まれてしまいました。世界で渋滞がひどい都市ランキングでたいていワースト10以内に入っているバンコク。車道はしっかり舗装されておりまた電車の本数が少ないため、タイ人は車での移動が大好き。この日は結局6時間かかってホアヒンに到着しました。



洞窟へ向かうボートの上で。潮風がとっても心地いい。

## 海と念願のシーフード

ホアヒンは王室の保養地として有名な場所で、その名にふさわしく非常にゆったりした空気が流れています。エンジン音がする水上スポーツは禁止されているということで、聞こえてくるのは波の音と行きかう人々のたわいのないおしゃべり。普段バンコクの雑踏の中で暮らしている私にとっては何とも癒しのひと時。

夕食にはまだ少し早い時間でしたがロットウーの中でお昼を簡単にしか取っていなかった私たちは海辺のレストランに入ることになりました。そして座るや否や、旅行中もっとも頭を使う時間の始まり。

その時間とは何をオーダーするか決める時間のことです。何をするにもお財布と相談する必要がある私たちが最近編み出したプチ贅沢を味わうための食費節約術があります。それは「最初に一人当たりの予算を決める→それに人数をかけてトータルの予算を決める→その予算内で食べるものを選ぶ」というもの。例えば、一人の予算を100バーツ（約300円）に決めたとして食べる人が5人いるとすると、トータルで500バーツ以内になるように食べ物を選ぶという感じ。贅沢な空間と時間を楽しんだ後は、屋台に場所を移しておなかを満たされるまで食事を続けます。

相談の結果、シーフード炒飯・シーフッドスープ・茹でた貝をオーダーすることに。タイ料理では、スープや炒飯に豚肉・鶏肉・シーフードの中から何を入れるかを選ぶのが一般的です。バンコクではシーフードを選んでも入っているのは小さなエビとイカくらいなのですが、ホアヒンでは魚も入っていて何度「美味しい」を繰り返したかわからないくらい大満足な夕食になりました。

## いざ洞窟へ

しっかり食べた翌日は少しでも体を動かそうとカオ・サムローイ・ヨード国立公園の中にある「プレーヤーナコーン洞窟」へ。ボートで行けると聞いていたので、ボートを降りて少し歩いたら洞窟に着くのだとばかり思っていたのですが、実際に行ってみるとすごい石段の連続。瓦のかけらが落ちていて歩きづらかった竹田城も比にはなりません。何度となく「すごいね、すごいね」と石段を登っている私を見た観光客にタイ語や英語その他様々な言語で声をかけられたり写真を撮られたりしながら歩き続けること1時間以上。ようやく洞窟に着きました。

やはり下界とは違い涼しい風が吹いていて、一気に汗も引きます。しばし洞窟の中で涼みつつ記念撮影をしたあとは、また「すごいねすごいね」とたくさんの人に声を掛けられながらも来た道を1時間以上かけて下りました。

次号もお楽しみに！



洞窟からの帰り道⇒